

# 川崎の男女共同社会を **すすめる会通信** No.206

●連絡先 藤井光子 hymico@me.com ☎&FAX 044-944-7872 ●発行日2020年 11月15日  
〒214-0003 川崎市多摩区菅稲田堤3-8-2-503 ●HP <http://web-k2.jp/ssk1985/>

## 非正規シングル女性の 現状とこれから コロナ禍での非正規問題を考える

2020  
Part. 2 10/18(日)

2会場36人参加 (男性4人)

—女性市議3人も熱心に発言 サブ場に16名—

★申込者は25人になり、4階の多目的室をオンラインで繋いで定員を40名に。すくらむの全面的なサポートで初めての試みを成功させることができました。音声聞き取りにくい場面もありましたが、好評でした。20代のすくらむインターンシップ生5人の協力、一緒に非正規問題を考えることができました。★パネラーの関根秀一郎さんが急病で欠席、話がきけず残念という声が多数寄せられました。

## コロナ禍で語る 非正規問題の今は…

最初にパネラーの菊池悦子さんが「どうして私は輝けないのか・個人の問題＝社会の問題・コロナ禍と非正規シングル女性」を自身の非正規体験から話し始めると、会場は一気にテーマに集中しました。

岩永先生は、菊池さんの話を受けるように、日本の「貧困」問題、「コロナショックの被害は女性に集中-雇用回復の男女格差-」と社会に潜む問題をえぐりだしました。

トーク&トークに移ると、次々に手が上がり、当事者の切実な発言が続くのは昨年ではない光景でした。自分のことを語ることに臆せず、具体的な状況が語られたのは、それだけコロナ禍で状況が逼迫しているのだと思えました。★大庭裕子(中原区)、大西いづみ(宮前区)、赤石ひろ子(多摩区)の3市議からも非正規問題を市政に届けるという発言が。

## 非正規シングル女性の「これから」を考えるために

パネラー 岩永理恵さん/日本女子大学准教授 (レジメの一部紹介)

日本における女性の「貧困」は(残念ながら)

明らかにされていない。

▶「貧困の女性化」という言葉があります。これは、貧困世帯のなかで女性が世帯主である世帯の割合が多数を占めることを指し、アメリカをはじめ先進国で見られる現象ですが、日本はそれが見られない例外的な国だといわれています。「日本の女性は貧困の女性化を達成するほど自立していない。離婚や経済的自立には手が届かないのだ」、つまり女性が家を出て独立した世帯を営むための社会的条件すら整っていない

いというのです。▶女性が経済的に自立する環境こそが必要。▶他方で、現状での女性の生きづらさは、経済的な概念では捉えきれない。

「コロナショックの被害は女性に集中

-雇用回復の男女格差-」2020/9/25掲載

JILPTリサーチアイ第47回 周燕飛 ▶7月の男性雇用者数は既に増加に転じているが、女性雇用者数は減少を続けている。特に子育て女性については、休業率の高止まりや労働時間回復の鈍さが目立っている。(2面に続く)

**社会的排除** ▶社会的排除とは「財や権限を既得する層・集団やそれと連動した国家権力が、特定の社会的カテゴリーを資格外とみなし財や権限から締め出すことをいう。▶例えば労働市場においては、学歴、ジェンダー、国籍などによって労働者は階層化あるいは身分化されている。▶三つの水準で把握すると、貧困と社会的排除の現実を理解しやすい。\*労働市場にお

ける排除、国家とかかわる制度における排除、狭義の社会的排除 ▶労働市場から排除された女性性は「家庭に入る」ことによって社会的に包摂され貧困を免れることができた。▶貧困とは、低い生活水準、すなわち生活様式における剥奪のことで、十分な資源がないために、そうした剥奪を回避できないことによる。

## 輝けないのは自己責任なの？

パネラー 菊池悦子さん／日本女性学習財団第一回未来大賞受賞・首都大学大学院在籍

### 私のこと 就職氷河期世代、高卒後

スーパーやデパート等で非正規雇用の販売員として働く。どうして私たちは輝けないのだろう。

非正規職で働くノンエリート、シングルの女性は問題として認識すらされてこなかった。そうした女性たちの存在を、社会に発信したかった。

### 輝く女性のイメージ

- ・キャリアとして経歴に残る仕事に就いている。
- ・正規職で、産休や育休の取れるような働き方
- ・子育て、家庭生活と仕事との両立

**現実**は……非正規職を転々とし履歴書に書けるような職歴がないまま35歳を越えて、もう正規雇用の職に就けることはないと考え始めた。シングルのまま、変化のない生活が一生続くことが現実として見えてきた。

### 非正規職シングル女性のアイデンティティ

- ・時給に見合わない責任を負わされたり、正社員との業務内容の線引きが曖昧→賞与や研修、長期休暇がなく会社の一員である意識が育ちにくい。(いつでも切られる備品のような存在)
- ・自分の「家族」を持たないことで感じる、社会的な孤立。
- ・何にも帰属できない自分とは「何者」なのだろう？

### 個人の問題＝社会の問題

- ・社会背景として……非正規雇用率の上昇、1990年以降、2010年代までの間に非正規雇用者数は2倍以上に増加
- ・7040問題、8050問題
- ・就職氷河期世代の経済的困難・キャリア形成の難しさ。

### 輝けないのは自己責任？

- ・2018年総務省労働力調査……▶「35～44歳」の世代で、非正規雇用者のうち不本意非正規雇用者の占める割合▷▷男性35.0% 女性9.6%
- ▶非正規雇用は多くの女性が望んでいる働き方？▷▷正社員として働ける会社がなかったから（非正規シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査）

### 男性稼ぎ主モデル

- ・男性が主たる稼ぎ手として家族を養う考え方
- ・男性労働者を配偶者とするを前提とした女性への賃金格差がシングル女性の貧困の原因となっている。

### コロナ禍と非正規シングル女性

- ・これまで新型コロナウイルスの影響が多いのは、製造業、宿泊業、飲食業、小売業、労働者派遣業
- ・解雇・雇止めが多かった業種に占める、女性非正規労働者の割合が高い。
- ・経済が不安定になると最初に切られるのは、非正規職女性▷▷「雇用の調整弁」

### おわりに

- ・根強く、女性は育児・介護など、家庭内のケアの担い手である配偶者に養われる存在という意識が残っている。加えて仕事も出来なければならないという社会的な圧力も強くなっている。

### 私が求めたいこと

- ・非正規職シングル女性への支援の拡充。
- ・性別役割分業意識の是正
- ・男女間の賃金格差の解消
- ・個人単位の社会保障



## 36人のトーク&トーク

### 当事者が語る現状

### 非正規で働く人に住宅支援を

■パネラー ●女性 ◆男性 □市議会議員

Q 女性のアイデンティティの支援に、どのようなものがいいかとお考えでしょうか？

菊池 孤立している状況にある方が多いので、つながり作りみたいなのが必要ではないかと思えます。資料に「もやカフェ」さんのチラシが入っていますが、このような所があれば行ってみたいなと思っていました。孤立してしまうと自己責任ということにおちをつけたがってしまうことが自分自身にもありました。高卒だし職歴もたいしたことないし、自分が駄目だからこういう状況なのだと思います。つながり作りの中で、個人だけの話ではない、社会構造の中で起きていることなのだ、自分自身の見方を変えるきっかけにはなる一歩にはなるんだろうなと思っています。

●(多摩区) 2週間前に会社をやめたのですが、製造業で22年間、開発部門で働いていました。多分思想的には男性に近い考えですけど、22年の間にプロジェクトを率いて女性の部下とも接することありましたが、どうも女性の部下は自分が出来る範囲でしか頑張ろうとしない。データを普通の人より早く打てるかもしれないが、データを早く打てる人が欲しいのではなく、データを打った先、会社全体の目標を知って、自分がプラスアルファで会社のために何が出来るか。チームのためにどう貢献できるか。そういう先まで考えていかないと5年目・10年目の人に言うのですが、そうしようとする人が多いです。「私はこれだけで充分で…、それ以上望まないから、自分が出来る範囲で頑張りますから…」と。

製造業でも組織の中で自分で成長していかないと、いつまでたっても下のラインからは上がれません。男性の手法がすべて正しいとは思いませんが、会社で生き残っていくには、自分の技術をどう使って、成長していくか…を考えないといけないのに、自分の出来る範囲の中でしか頑張らない。

菊池さんは書店の中で働いていられた時どのよう

に働いていましたか。働いていた時の状況を知りたいというのが1点目、女性の自己評価の低さはどこからくるのか、どうやったら克服できると思いますか。

誰れかが具体的に引っ張ってあげれば、自分の評価は伸びるものなのか、どういう引っ張り方がいいのか、思いがあれば教えていただけますか。

■菊池 自分がどういう働き方をしていたのか考えてみると、確かに評価を受けるような働き方ではなかったと思います。私は元々上司受けがいいタイプではなかったです。一生懸命頑張っていますというタイプではなかったですね。まあ時間の中で決まったことやって帰ればいいでしょう、どちらかといえば頑張ろうとしない働き方だと思います。

なぜ頑張れなかったのかという背景を考えてみると、女性がリーダーとして引っ張っていくという形は、子どもの頃から教育の中でそういう状況があまりないというのがあります。

スーパーで働いていたとき、パートから正社員になった友達が「男性の上司は何故パートの人たちは頑張ってくれないんだらうとよく言っている」と話していました。「でも時給何百円でやれと言われてもやれないよね」というようなことも言っていました。それに近いです。

最低賃金で精神論めいた会社への忠誠心みたいなものを出して、それ以上の働き方をしろと言われても私はそれほど貰っていないという思いがありましたし、実際上がれる人は何百人という従業員の中で、5年間で2人しか見ていません。

パートから正社員になれる人。そもそも上がれる道はそうとう極細で、そこでやる気を出せというのはなかなか厳しいです。

30代ぐらいまでは結婚したらこの道は抜けるのではないか、という思いは私も持っていました。そういう社会背景が大きいのかなあと思っています。女性の自己評価の低さはどうやったら上げられるのか。頑張ったら評価を受けて上がれるという目

に見えるモデルケースみたいなものもつとないと。ただ頑張れ、頑張れと励まされても力のだしようがないと思います。社会体制自体が、頑張れば評価が得られるという実感できるものになっていかないです。

● 私は宿泊業で派遣で働いていました。コロナの影響で派遣切りみたいな形で、川崎に戻って来ました。女の人って簡単に貧困になるんだな、簡単に貧困の道に陥りやすいんだなと思いました。自己評価を上げるという話、自分の中でもずっと考えていたことで、たとえば結婚をしたら幸せになれる、正社員になったらまともな給料がもらえて幸せになれるみたいな「世間体」「これがいわゆる幸せ」と、あまりに皆求めすぎてきたのかな…。「幸せの在り方」のようなことを考える必要を感じます。そこそこ生活ができて、好きな人がいて、家族とか、不自由なく暮らせることが幸せで、男性にとっての幸せはがんがん年取をあげていくとか、成功するんだとか、幸せのイメージをシンプルにしすぎではないのかな。男性にも女性にもこれが幸せですよと押し付けられてきて、そのギャップに苦しんでいるのかなと私は思います。

● もやカフェ主催している団体です。

難しいのでとりあえず経済的な問題だけに注目しています。給料って本当に低くて、まじめに8時間働いても先ほど(の発言にあるように)親元で暮らさないと苦しい状態になってしまう。では給料上げるために何かしたいと思っても個人では何ができるんだろうと本当にわからなくなります。仕事もかけもちでしていると時間もなくて、そんな中で給料あげるために個人で出来ることってなんだろう？ 個人的には、私にできることは話を聞くことぐらいだろうと思うのですが、何かあったら教えていただけませんか。

岩永 給料もそうですけど、住宅の手当てかなと思います。家賃がなければ、先ほど菊池さんが例を出してくださった13万円、これが家賃5,000円ぐらいだとぎりぎり暮らせると思うので、まず自治体とか政治をされている方に要求するのは住宅補助が大きいと思います。そうすれば光熱水費が払えればなんとか暮らしていける基盤が出来るし、安心感も大きいのではないかと思います。

□大庭市議(中原区) 行政に望むこと何かなと思っていたところです。住宅問題は本当に深刻で、高齢者の女性、一人親家庭の方から市営住宅に入りたいがどうしたらいいかという相談が本当に多い。抽選で4000人近く入れない。国の政策が公営住宅は作らない。そういう状況をなんとか変えて行かなければと思います。川崎市に対しても、市営すすめる会通信206号

住宅は作らなくてもアパートを借りた場合、家賃補助を市が手当するか提案するのですが、行政は財政を出さない、支援しないというのが問題だと思います。川崎は家賃が高くなっている地区もあります。生活保護の問題ですが、どんどん基準が引き下げられて、深刻な問題です。引き続き行政に訴えていきたいと思っています。



菊池悦子さん

●中原区 行政に関してですが、母が世帯主、兄33歳 私30歳。コロナの影響で私も、母も職を失いました。家賃が払えないので、住居確保給付金申請したのですが、家賃3か月分くらい川崎市から補助が出て21万円くらい貰えました。

申請の制度があることを母は知らなくて、私はネットで調べてこれは申請できると、母に書類を渡しました。私がフォローしながら書いて、通ったのですが、母はこんな難しいものを何枚も書けない、行政関連の資料を見ただけでアレルギーを起こしちゃう。そういう人が多いのでは。

自分が困った時に利用できる制度知らない、手続きが難しい、自分がしないと申請がおりない。お得な情報知らないと何ももらえない、それって不利で不公平だなと思います。今回のコロナの関連で女性が職を失った、まず何が困るか、家賃じゃないですか。出て行かなくてはならない、URとか市営住宅とか女性だけの一定期間社会的に自立するまでの、シェアハウスとか社会的なサポートとか行政でやってくれたらすごく心強いのではないかと。

Q 高齢女性の生活保護の利用者の割合が高いのに驚きました。多分老齢年金が全く経済的に追いついていないということでしょうか。

岩永 年金に加入していない人もいますが、2~3万円くらいの年金をもらっているが、生活費が足りないので生活保護を受けています。母子世帯のお母さんだとそもそも年金に入れていない、入っていてもすごく低額の国民年金にしか入っていない方が多いので足りていないということです。

あと寿命が長いということもあり女性の高齢者の割合が生活保護者利用者の中で高いということはあると思いますが、年金額が男女で差があるというのも大きいと思います。

Q 「新卒正社員で内定が出なかった場合に非正規雇用で働くのと大学院に進学するのとどっちがいいですか？」



岩永理恵さん

■岩永 難しいですね。大学の教員としては是非大学に来てくださいと言いたいです。大学院へ行って就職できるかという問題も出て来るので、難しいなと思います。もし就活に失敗してという場合に、親のすねを出来るだけうまくかじられて、大学院の方がいいと

思うなら、それもいいんじゃないとは言いますが、何かにつまづく子はだいたいの家で問題かかかえている子が多いです。その場合には自立した方がいいかなと思います。先ほどの住宅の問題にもどって、新卒で自分で家を借りて都内で暮らすのはハードルも高いし、大変だと思います。ケースバイケースかなと思います。

自己評価の低さということにコメントしたいのですが、私も日本女子大に勤めていて、(女子大生は)大変自己評価が低いと思います。労働の先生とも議論したことがあるのですが、自己評価が低い、何故だということそもそも多分女性だけでなく人として生きにくいのが日本社会でまずあると思います。女性はさらに生きにくい。4年生や3年生10人くらいでしゃべっててまず出てくるのはさまざまな暴力です。暴力に囲まれているのをまず感じます。例えば電車の中での痴漢、サークルとか部活の中でも男子学生と接したときパワハラとかセクハラとまではいかないけどということ、実習に行った時のハラスメントとか、暴力に囲まれて暮らしているんだな…と思います。

社会への信頼が低いのだと思います。その人を助けてくれると思えない。ゼミで学生に対して「何を発言しても怒らない。正解とか不正解とか大学の授業ではないんだからね、自由に発言してもいいんだよ」と言っても学生は半年くらい様子を見て、本当に先生が怒らないことを確認した上でようやく発言します。今、4年生の子とは私としては自由にディスカッションしているなと思っているのですが、そこに行きつくまでには半年くらいかかるのかな…と思います。

多分、職場の中でもっと頑張ればと言われたときに先ほど菊池さんが言った最低賃金とか、時間もないとかいろいろあると思うんですが、その職場に対して、自分も頑張ればきちんと評価してもらえるのかという信頼感が持てないことが大きいのかもかもしれません。小さい頃からの社会への信頼の低さみたいなのが育まれてしまうような環境が大きいのではないかと思います。

Q 「最終的にどのようになるのがゴールとお考えですか。そのために必要な政策・施策は何だとお考えですか」

■菊池 最終的にどうなったらゴールというのは難しい。正社員になりたいとずーと思っていたのですが、正社員イコール幸福、先ほどの幸福とは何かと言うお話でもありますけど、正社員になるための支援など必ずしもありません。まず前提として女性が一人で働いて生きていける社会であってほしいということがあります。それが得やすい社会であって欲しい。

老後を考えると、どう考えても生活できないなと思うので、女性一人で生きるという設定がされていない社会が変わって欲しいなと思っています。30代、20代のときに何を支援して欲しいのか、やはり情報からの孤立(を防ぐこと)かなと思います。

ここに行って話ができる、そこで情報が得られる、孤立しない場所が一番欲しいと思います。

□赤石市議(多摩区) 人とのつながりと自己肯定感、今日は非正規の女性が対象なんですけど、少し前に大学生がコロナで困っているの、若者たちと一緒に専修大学前で食料の無料支援をしました。(注:学生0円スーパー)その時、多くの学生から「何故こんなことをしてくれるんですか。無料でこんなに沢山もらっていいんですか」と率直に聞かれて本当に驚きました。学生たちのために食料や日用品、生活物資を必要なだけ持って行ってくださいということで、2時間くらいやりました。100人近くの学生が来て、こちらもびっくりしました。

貰うのがすごく申し訳ないというのは自己責任感に相当縛られているのではないかと、女性だけでなくそういう世の中になっているのではないかと逆に危機感を持ちました。

そのしわよせがジェンダーギャップで根強く残っていて特に女性に表われている。学校で歩まれてきた人生の中でつちかわれてきたきたものなのかな。そういう人が集まれるコミュニティというのか、どこに繋がっていったらいいのか、そういう場所があまりにもない。話がずれちゃいますけど、ご近所つきあいとか、防災とかの問題でも繋がりが必要な時期だけど、どこに助けを求めているのか全くわからない、声も出せない人が本当に多いのかなと思います。

●宮前区 去年単身で島根県に移住しました。川崎出身ですが、こちらは人の多さに辟易して出雲大社のある島根県の出雲市に単身で行きました。家賃の話、住宅の話もでしたが、住居費が安いから生活がしやすいのではないかと自分は

思っていました。仕事がなくなって川崎に戻ることになったのですが川崎の良さがわかるようになりました。人が多いから様々な問題を抱えている人とつながりやすい。島根ではこういう会に出ようものなら顔を知られているのであの人は貧困ではないかと思われる。田舎ではスローライフとか、水もいい空気もいいと思っていたが、田舎は人とのしがらみがつよすぎて、このチラシのような「もやカフェ」とかはできない。都会の良さは人が多いのでつながりやすい。困った時に相談できる窓口がないというのは、切実な問題だなと思っています。

子どもを持った人で仕事を支援するような相談窓口は多いですが、単身で実家暮らしで、職を転々としていたり、非正規、非定期とかいろんな働き方している人への支援や対話一切ない、島根県にいたとしても同じでした。もっとひどい状態。島根県では家の中に引きこもっている人、家の中に隠れていてその人たちが出てくることすらなかったのを私は目の当たりにしました。

◆林（弁護士） 労働の相談受けながら弁護士の仕事をしています。非正規の方からの相談も沢山受けています。格差の相談は非常に多いので、格差を改善する待遇を改善することがひとつ大きいかなと思っていたところ、先日の司法の役割として最高裁は司法の役割を放棄しました。退職金とかボーナスとか一部だったら合理的だと高裁が認めていたにもかかわらず最高裁が認めなかった。それは労使交渉でやるべきですよ、元も子もないような、労使交渉でうまくいかないから格差の改善をやっねと声をあげたのに司法は放棄してしまった。格差を改善していく、労働組合に入っていない方が多い中で、労働組合がつながりを作っていく一つだと思いますが、どんなふうにして労働組合に希望をみだしていくのか何か講師の方にご意見いただければ。

■岩永 窓口はたくさんあります。なぜみんなつながらない？ つながるには困った人が一歩踏み出して、引きこもっている人たちのところへアウトリーチすることが、ソーシャルワーカーの中で常に言われています。専門職の方がその人の所へ出向くことはすごく求められるし、アウトリーチは重要だしすぐやるべきだと思うけど、困ったときに誰かが家に来て「困っているんですか？」と言われることも恐怖だったりする人も沢山います。

兼ね合いが難しいのでアウトリー

チが大事だが、繋がらないのは何故かと考えた方がいいですね。専門職のアウトリーチも大事だが、市民の人のちょっとしたおせっかいが必要じゃないかなと思うことがよくあります。学生が話してくれたことですが、ある時、知らない外国人の男性に抱きつかれて、その時まわり人がたくさんいたのに、助けてと言っても誰も助けてくれなかった。電車の中で気持ち悪くなりホームで30分くらいずっとまっていたが、声をかけてくれたのは同じ高校の同級生だったとのこと。

ささやかな事でもその時、誰も助けてくれなかったら、本当に大変な時に助けてという声出せないだろうなと思いました。ゼミの中でできるだけおせっかいの声をしようねと、学術的でない結論に落ち着くんですけど。

困った時にならないと窓口を探さないの、（普段は）窓口がどこかはわからないと思います。困った時に対応できる体制を整えておくことがすごく重要だなと思いました。電話でいつも相談受けていたけど今回グーグルメールでも相談を受けた。労働組合も相談に対応できる態勢を整えておくことがとても重要だと思います。

◆鈴木（社労士 横浜） 一度非正規になってしまうと、なかなか正規に上がれない。会社入って有期5年で正規になれる直前に解雇される例。非正規でずっと働いていても（無期転換ルールの）労働組合法が機能していない現状。高齢になり年金もらっていても水準通りには上がらず、支給率が下げられる。

同一労働同一賃金だとかきれいごとガイドラインで作ってきて厚労省にやれとか言っても最高裁で認めない判決。一部勝った部分もありますけど。

10万円の給付金があってもなんで世帯主へ支給なの？ 世帯主(制度)などやめちゃえばいいと思うのですが。未だに世帯主でなければ住宅手当払わない例。雇用調整助成金、煩雑な手続きで手当が貰えないなどの実態があり、そうとう簡素化になりましたけど、コロナで休業制限が3か月が1か月になったとか、川崎水害があったので給付制限自己都合で3か月から1か月になったとかあったけど、そこから生活保護までが遠い。社会全体で変えて行く必要があると思う。

●インターン生 まだ働いていないので、正規とか非正規とかイメージしづらいのですが、今日のお話を聞いてなんとなくイメージがついた。来年就職活動するんですけど、頑張ろうと思いました。



●インターン生 これから就職活動する学生に何かアドバイス、メッセージがあればお聞きしたいです。

●インターン生 非正規というのがイメージしにくかったのですが、少しリアルに問題と考えられるようになりました。途中で自己肯定感のことが言われましたが、私自身もそんなに上を目指すというのはなくて、指定されたことが出来たらいいかなという考え方で。自己肯定感が低いとか大学でもよくそんな話がありますが、難しい問題だなと思いました。

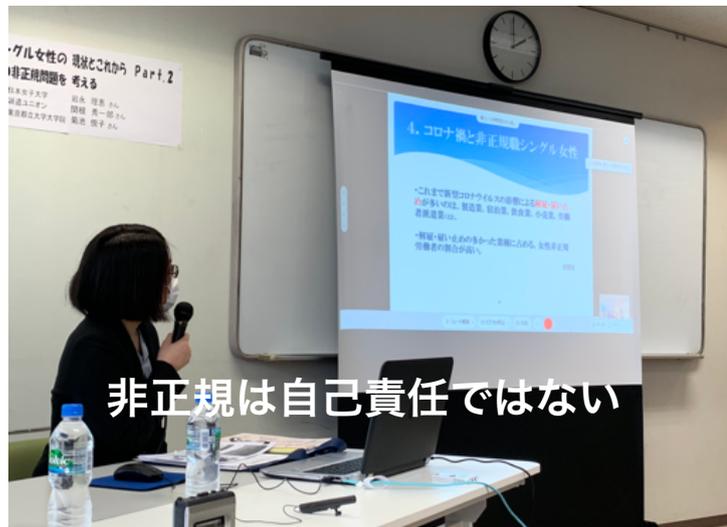
●インターン生 私も3年生で就活控えているので、こうう時世で今までよりもつらい状況になると思います。

■菊池 私は専攻が社会学で、卒業する時の先生方が一言メッセージをくださったのですが、皆さん口をそろえて「会社なんか信用するな」とおっしゃって会社に「自分を捧げるような働き方をしたら自滅することもあるかもしれないから、きちんと労働法を学んで自分を守る手段を身につける、本当に無理だと思ったら逃げなさい」と。すごく面白いなと感じて、私自身もそう思っています。辛いことから逃げるなというのは、ある時は本当なんですけど、ある時は嘘で自分自身の判断で無理だと思うような会社だと感じたら、それは自分を信じたほうが良いと思っています。

司会 労働法を学ぶ方法はありますか。

◆林（弁護士） 「ありますと」いいながら学校では正直あまり教わらないです。社会に出たら会社から理不尽というか違法なことされてもそれが違法かどうかわからない、だからこそ身につける必要がある。私は川崎でNPO法人ワーカーズネットワークかわさきというのをやっています。そこでセミナーみたいなゆるい勉強会をやっています。岩永先生からの話にもありましたが行政が労働法の学習会とか講座を結構やっていたり、労働センターなどもありますので、探していただいたら沢山セミナーが見つかります。自分自身を守るという話、まさにその通りだと思います。労働法とはどういうものかと学んで身につけるといいと思います。

□大西市議（宮前区） 非正規シングル女性の置かれている現状、コロナの状況で今まであった課



非正規は自己責任ではない

題がさらに大きく浮きぼりになりました。

これまでヘルパーさんとか保育士さんなどの賃金の問題、労働に見合った賃金が払われてなくて、ヘルパーさんが不足だ不足だといわれながらも低い状況は続いていて、この状況はどうなのかと疑問

に思っていました。

今まで光があたってこなかった非正規シングル女性の問題。声をあげて社会全体でこれからとりこんでいく問題だと思います。住宅の問題ですが、これを機にまた勉強させていただいて、皆さんと少しでも暮らしやすい街を作っていけたらと思います。私も今日はとても勉強させてもらいました。ありがとうございました。

司会 終了時間も近づいていますので、まとめと残っている質問に答えられることがありましたら

菊池 私自身も非正規職でずっと働いてきたシングル女性としてどこに向かうのか、自分も全く見えていない状態で、大学院卒業後もおそらく正規職にはつけないだろうという予感があります。勉強したことはなんだったのか、これから何を生かしようやって生きて行こうかと自分でも迷っている段階です。みなさんのご意見を聞いて、とても考える部分が多くて学びになりました。

先ほどの裁判のお話し、組合の方のお話しの中で思ったことがあります。ジョブニュースとかで非正規労働者の退職金とボーナスが出ないという結論が出ていましたけど、それに対するコメントを見ていたら、すごく辛いコメントが多くて—結局そういう働き方を自分たちで選んだのになぜ文句言っているの—みたいなことが強く、それが社会的な意見なのか思いました。それは辛くて読めませんでした。やはり自己責任であるという考え方はまだまだ強く、自分で選んだ生き方で、格差があっても当然だというふうに捉えている方が多いのだということが分かったのですが、労働組合になぜつながっていかないのか…。

私自身も働いていた時に労働組合に誘われたとしても入らなかったかな…。自分からは遠い世界のように、誰かと対立するという状況がまず怖いみたいなこともあると思います。

格差が当然だという意見に対抗していくには、やはり労働組合は大事だと思います。人とどう繋がりが、団体としてどう闘うかということが本当に必要なのだと、大学・大学院に入って考えるようになりました。今日は色々なことを考える機会となって私自身もいい時間を過ごさせていただきました。

Q 就活する学生にアドバイスは？

■岩永 リクルートなどの就職エージェントを活用して就活している学生が非常に多いのですが、もっと社会を疑った方がいいです。どうしてリクルートが就職エージェントを使って無料でやってくれるのか、その背景になにがあるのか。

大学で学んだことを踏まえて自分でまず考える。自分と自分の周りの大事な人たちに話を聞いて決めた方がいいと思います、というようなアドバイスをしています。

私は住居確保するということがとても大事だと思います。公的支援策の中でも大変重要だと思います。住居確保給付金は今、最大9ヶ月となっています。12月くらいに多く人たちが切れる、そうすると日本にある支援策は唯一生活保護の住宅扶助だけ、生活保護は資産を殆ど認めません。貯金もほとんど認めませんのでそこに入るハードルは高

い。家がなくて困る。家賃払えなくて困る。すでにローンが払えなくて困るは、ニュースになっているので、住居確保給付金がどのように使われてどれくらい役に立ったかということきちんとを市議会議員の方たちにチェックしていただきたいと思っています。

政治家大事だと思います。今回来ていただいて聞いて下さるのはとてもありがたいなと思っています。みんなの意見を伝えるということが多分みなさんの生きやすさにつながっていくし、政治家への信頼は社会への信頼、自分たちで高めていく。

最後に菊池さんがヤフーの記事が辛くて読めなかったと言われたこと、ああいうのは読んでほめです。あれは嘘です。世の中の裏と表みたいなもの…そういう嫌なところだけが出てくる…。王様の耳はなんとか…、という場所なので、その場で思っていなくても書いてしまうことも。

「女子大生には怒りのパワーがなかなか持てない」と先ほど、男性の方が発言されていましたが、そういういろんなおせっかいに使っていただきたいなと思いました。

今日は会場に行けなくてとても残念なんですけど、とても有意義な時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。



## 女性ニュース

### 核兵器禁止条約発効へ

10月24日にホンジュラス(中米)が批准したことにより、90日後の2021年1月22日に核兵器禁止条約は発効することになりました。歴史上初めて核兵器を違法とする条約の批准が50か国に到達し、条文どおりの効力を発揮することになりました。

第2次世界大戦の末期1945年8月6日に広島・9日に長崎に投下された原子爆弾は街を焼き尽くし破壊し30万以上の人々の命を奪いました。人々は廃墟の中から立ち上がり、被爆者とともに「悪魔の兵器をなくせ、原爆許すまじ」と声を上げ続けてきました。いえることのない痛みを心と体に抱えながら「人類と核兵器は共存できない」と訴え続けてきた被爆者と平和を願う世界中の女性・市民運動、各国政府、国連の共同によって数々の妨害をはねのけて実現した快挙です。(新婦人新聞より)

2020.1/31~2/6

すくらむまつり展示参加

コロナ禍で例年のお祭りは行われません。詳細は後ほどご連絡

#### ●これからの活動

11月18日(水) 幹事会10:00~すくらむ21

#### ●活動日誌

9月20日 通信印刷・発送

10月12日(月) 幹事会 10:00~すくらむ21

10月18日(日) 「非正規シングル女性の現状とこれから」講座 13:30~すくらむ21

10月28日(水) 幹事会 13:30~すくらむ21

11月1日(日) かながわ自治体学校参加13:30  
健康福祉センター(桜木町)

## 参加者からの 感想・意見

### ■参加のきっかけは

- ・自分自身が非正規シングル女性で将来に希望を見い出せずに悩んでいるため。
- ・大学卒業後、様々な職を転々としてきて、職や働き方について考えることが多かった。コロナ禍で、こうした問題のあり方が変わってきたと思うので、その情報も得たくて参加した。
- ・今回のテーマ対象の当事者なので、話が聞きたかった。
- ・関心のある分野だったから。
- ・自分自身も非正規・未婚女子の問題の当事者なので、解決策など前向きなものが得られればと思い参加しました。
- ・すくらむ21のインターンシップ業務の中で参加した。
- ・非正規が正規になれるよう、社会を変えていきたいので。
- ・Part.1で、知らないことが多くあったので。(前年度参加者)
- ・普段は聞くことのできない貴重なお話を聞いた。特に自身も非正規として働いていた菊池さんのお話が印象深かったです。

### ■講座について

- ・「自己責任」という言葉に捉われてSOSを出せずにいる自分に気づけたこと。気持ちが前向きになれたこと。
- ・市民とこのような観点で話し合ってた嬉しかった。
- ・自己肯定の低さに悩んでました。人とのつながり信頼が大切、それがベースと気づかされました。
- ・講演、興味深く聞かせて頂きました。自分に必要な知識というか、打開策についても考えることができました。

## たくさんの感想が 寄せられました

20代6人 幸区1人  
30代3人 中原区3人  
40代3人 高津区3人  
50代5人 宮前区2人  
60代2人 多摩区2人  
70代4人 麻生区1人

川崎市議会議員3人

市外 7人

横浜市・新宿・寒川・茅ヶ崎

福生市/参加者36人

(アンケート回答 23人)

- ・受講者同士のディスカッションがよかったです。
- ・未婚であることの風当たりが強い現状、でもその中で強く生きようとする方々のことを知りよかったです。
- ・自己評価が低くなるような世の中だ。自分が悪いのではない。自分らしく生きられる社会に変えよう。
- ・関根さんのお話も聞きたかった。

### ■オンラインでの講座は

- ・トラブルで音声小さいことと、出入りと話し声のバタバタ音が気になりました。外の音(太鼓?)がうるさかった。
- ・オンラインに慣れているので、何も感じない。
- ・オンライン講座も増えるので主催者、受ける人共々慣れていく必要があると思いました。
- ・感染症対策で二会場に分けたことは良かったと思う。
- ・多目的室の方の意見もききたかったです。
- ・音声がキンキンしたり雑音が入ったりした為
- ・オンライン講座は始めてでしたが、まあまあよかったです。

- ・よく努力されている。
- ・本当は生で聞きたかったがコロナなので、いたしかたない。
- ・多目的の方に若干疎外感があったように感じた。音声途切れた時に言い直しがないと何を議論しているのか分からない時間が多々あった。

### ■感想・講座のテーマは

- ・「非正規」や「シングル」のお話は授業でも取り扱うことが多かったですが「非正規シングル」という視点で考えたことがあまり無かったので、今回のお話とても貴重でした。実際にご自身が非正規だったからこそ感じた思いや考えを知ることができ大変勉強になりました。
- ・本日のような講義、あるいはひきこもり、うつ病等々について、情報を必要としている人達が数多くおられるのに、様々な理由でそうした最も必要としている人達に情報が届かないという歯がゆさがあると思います。行政には多くを期待していませんが、他方、行政でなければできないものもあります。本日のようなささやかな、然し普段の営為が、やがて世界を変える(こともある)と思います。一層の健闘を祈ります。
- ・多くの人がつながりや相談できる場を求めているということが大事だと分かりました。
- ・幸せが何かということを各自がコロナをきっかけに考えるときにきていると思っている。
- ・いろいろなジャンルの方々の意見が聞けてよかったです。①自己肯定⇒信頼感 ②まずは住居の確保(助成)は、本日でないと知り得ないコメントでした。勉強になりました。住居については、空き家、廃業しそうな民泊を使って(行政の協力をもらいながら)NPOが上手に運営できないものなのでしょうか。また、

自分に合った会社がないならば、“起業する”という手段も視野に入れつつ前に進むためのサポートをしたいと思いました。

・当事者、学者、様々な方の意見が聞けてよかったです。皆様の意見、現状をこれからの提案に生かしていきたいと思いません。大変参考になりました。

・住居の問題、私は実感しています。生活していくうえで家賃が占める割合は大きい!! なんとかしたいと思いました。

・女性（非正規・シングル）の抱える問題を話すことができよかったです。

・女性は簡単に貧困になりやすいという言葉聞いて、他人事ではないなと感じました。「自己評価を上げる=良い世間体を求める」ということは良く考えると違うのではないかと、この講座をお聞きして思いました。私も女性1人で生きることのできる設定がなされている社会の実現が大切だと感じ、社会の意識の根本から変える必要があるのではないかと考えました。

・女性の貧困は制度的な面から起きる問題だという考えしかなかったが、自己肯定感など心理的な側面もあるということが新しい見方でした。

・自分のキャリアデザインでは(現状)結婚の選択肢がないのですが、今の日本では、まだ「女性の幸せは結婚→出産」であることが貧困層からみても明らかであることに衝撃を受けました。今思えば大学で女性の働き方を研究していても、それは「キャリア向上」とか「仕事と家族の両立」といった表面的なものばかりで、自分にもまだ「女性の幸せ」のステレオタイプが残っていたのだな、と考え直すきっかけになりました。

また、生活保護の支給額引き下げの話は大学で憲法25条の学習

をした時に出てきた朝日訴訟や堀木訴訟の判例にも通じるころがあつて、やはり基準を一つ変えるだけで不利益を被る対象が広がってしまうのだなと痛感しました。

・非正規雇用の方の割合など、具体的な数字をあげてお話しして下さり、女性の貧困は、誰にでもあり得る身近な問題なのだと実感しました。自分が生きていく上で困らないようにサポートなどの情報収集や、誰かを頼ってみる、ということも大事なのだと思いました。

### ■すすめる会へのメッセージ リクエスト、ご意見

・今回はこのようなお話を聞く機会を設けて下さり、ありがとうございました。自分は学生なので「非正規」という言葉があまり上手に理解できなかつたのですが、講師の先生や参加者の皆さんのお話を聞いて、今の日本の「非正規シングル」の問題の重要性を理解することができました。今日聞いたお話を今後の勉強にも役立てていければと考えております。

・今回は非正規シングル女性がテーマでしたが、大卒・正規・女性も、(生活費以外かも知れませんが)苦しい気持ちを抱えています。←男性組織で上手くやっていけない、先の道が分からないとか。いつか、そこもタイアップして下さい。

・非正規シングル女性のおかれている状況をもっと社会に知らせていく必要があると思えます。また講座の開催を考慮いただければと思います。ヘルパー、保育士など女性が主に担ってきた所は賃金が低く女性の置かれている現状を変えていく必要があると考えています。

・昨日、ジェンダー平等の学習会に参加する機会がありまし

た。男女共同参画の文言にいたる経過(政治的背景)を知り(違和感)、市民の側からジェンダーという言葉が社会的に正確に使っていく必要があると思えます。

・本日はこのような講座を開催して下さい、ありがとうございました。私はインターンシップ生として参加させていただいたのですが、もともと社会保障に興味があったため、大変興味深くお話をお聞きしておりました。人が多い川崎だからこそできる支援もあるのではないかと島根県に移住された方のお話を伺って思いました。参加された方全員が真剣に話を聞いている姿を見て、非正規の問題は深刻であり、大変ニーズの高い話題だと改めて感じました。本日は誠にありがとうございました。

・学生(中高生や大学生)向けのワークショップも開催してほしい。今ほとんどの講座は参加者の年齢層が高いため。

・自分の人生計画に大きくかわる話をたくさん聞けました。

・今後もこのようなお話を聞ける会を開催して頂きたいです。とても勉強になる会でした。

・スタッフの方々がきびきびしており、気持ちよかったです。

・またこの会 Part.3を開催してほしい。絶対行きます。すごく良い時間を過ごさせていただきました。



たくさんのご意見  
ありがとうございました